

網走ほんりゅう組

第417号
網走教職員組合
〒090-0836
北海道北見市東三輪1丁目83-35
TEL0157(31)7551
FAX 0157(31)7559
1月21日

年頭の挨拶 能動的・主体的学びを創造して

網走教組執行委員長
大坪 哲也

私たちが網走教組を結成した頃、北教組からは、「分派分裂集団、組合を破壊する奴らだ」という差別的な見方をされ、職場の中で孤立する組合員もいました。また、自分が網走教組組合員だということ、職場の中で明らかにできない組合員もいました。このような差別と偏見の中で、網走教組の考え方を広げ、組合員を増やしていくことはとても大変なことでした。差別と偏見とのたたかいが、結成当時の網走教組の取り組みの全てだったのです。

網走教組を大きく発展させるためには、様々な信頼を築いていく必要があります。一つは、子どもたちや保護者との信頼です。そのために大切にしなければいけないことは、子どもたちの人間的な成長を支える教師であり続けることです。もう一つは、悩んでいたり困っている先生方に寄り添います。私たちが、このような考え方に立

てたのは、定期的に行ってきた学習があったからです。学習が、私たちの意識を変えます。実践をつくり出す力になったのだと思います。この学習を大切にすると、この当時の思いを、私たちはしっかりと受け継ぎ、さらに発展させていかなければいけません。しかし、かつて行ってきた学習は、受け身的なものでした。誰かを呼んできて、その人の話から学ぶという学習がとても多かったように思います。私は、これからの網走教組の学習は、このような受け身的な学習ではなく、「能動的・主体的な学習」に変えていく必要があると思います。

「能動的・主体的な学習」をつくり出すためには、組合員一人ひとりが主体的に組合活動を行い、一人ひとりが組合活動を創造していく、そのような網走教組に変わっていかねばならないと思います。組織は、人がつくるものです。方針も、実践があつて生きてきます。数は少ないけれど、いろいろな人たちが信頼される組合をめざして、頑張っていきたいと思います。

冬の合宿研 in 温根湯

1月17日～18日に温根湯ホテルで「2014年度冬の合宿研」が遠軽・紋別支部の担当で行われました。例年2日目には別のテーマで学習を行うが多かったのですが、今回は2日目にも「前日に語り尽くせなかったこと」ということで、共通のテーマでの学習が行われました。



一つ目のテーマは「先輩から学ぶ教師力」ということで、大坪先生を講師に、教師としてのスタートから組合活動の意義や役割などについて話していただき、そこから、それぞれのこれまでの状況などを含めて話を深めていきました。置戸小で、教育観・組合間の違いから職場の中で浮いてしまい、宗谷に戻りたいと思うほど大変な時期があったそうですが、子どもたちや保護者に信頼される教師になろうとすることで、少しずつ周りの先生にも理解を広げて行くなど、これからの組合活動にも求められる実践を通しての取り組みについても語られました。

二つ目のテーマは「特別な支援を必要とする子どもたち」ということで、今回担当の遠軽・紋別支部の先生方から「特別な支援を必要とする子どもたち」に関わるレポートが出され、そのレポートに関することやほかの先生方の特別な支援に関わる課題などが話し合われました。その中で、支援の必要な子も含めて集団をどのように作っていくのかということが話されました。「子どもたち自身に集団を作る力を身につけさせることが大事。」「子どもたちはつながりたいと思う気持ちを求めている。」「みんなでやればこんな風に行けるんだという日常の体験を積んでいくことが大切」などという意見が出されました。



一日目の夕方には、今年度退職される大坪先生を「囲む会」が行われ、大坪先生にまつわるクイズや参加したそれぞれの方の大坪先生への思いが語られました。

網走教組をこんな組合に

労働組合の存在意義の第一は、労働三権をはじめ、労働者に保障されている権利を守り、使用者に対して適正な賃金や労働条件の改善を求めていくことにあります。しかし、近年の情勢は非常に厳しく、政治と資本の側との連携により、労働組合の骨抜き化がどの業界でも進んでいます。「組合が自分を守ってくれる」「組合が権力と戦ってくれる」そんな機能はとつと失われていきます。そんな中で組合の新たな存在意義は「情勢の客観視」にあると思います。日々の多忙な業務、次々と突きつけられる圧力や締め付けに私たちの身体は大部分は砂に埋まり身動きがとれない状況にあると思います。そんな中でもせめて首からは回るようにするもの、それが組合だと思っています。組合からもたらされる情報、仲間とのつながり、これらが私たちが完全に砂に埋もれるのを防いでくれるのです。教職員の分断が進み職場での同僚性が薄れる中で、私たちが情勢に流されず自分の信念に基づいて仕事をするためのベースキャンプ、それが組合です。ベースキャンプは人任せでなく、自分たちで経営・維持しなくてはなりません。そのためにこれからはできることはやっていきたいと思うし、全員がこの思いを共有して力を出し合っていけたらと願っています。「学ぶことをやめるとき、私たちは教えることをやめなければならぬ。」「フランスのサッカー指導者ロジェ・ルメールの箴言です。この組合が私たちの信念と誇りをもって仕事を続けていくための学びの場であり続けることを切に願います。

(文責 網走支部 齋藤 正倫)